

国際的な
企業のコミュニケーション

渉外・広報

上司×部下

世界 27 カ国でプロジェクトを展開する、日本最大級の石油・天然ガス開発企業、INPEX。オーストラリアではパース、ダーウィンを拠点に油田、ガス田の開発を行っています。最前線で政府や地域コミュニティと対外折衝を行う 2 人にインタビューをしました。



上司 ビル・タウンゼントさん

INPEX・エクスターナル・アフェアーズ & ジョイントベンチャー・ジェネラルマネージャー。アメリカ出身。2006年にINPEXに転職。4大陸、6カ国で働いてきた経験を持つ。



部下 井上 毅さん

INPEX・渉外・広報担当。日本の大学卒業後、新卒採用にて同社へ入社。原油のトレーディングや人事、広報を経て、パースにて現職に至る。パースと東京の橋渡し役を担う。



世界の人たちと働く

世界で働くということは、それだけ多くの異なる考えやバックグラウンドを持った人たちと仕事をするということ。

井上：「私がパースに来たのは、4年前のことです。正直なところ、海外志向ではなかったのですが、海外に異動することになって、焦りました」



タウンゼント：「私は、8年前に転職しました。アメリカで生まれ育ち、自国、ロシア、アゼルバイジャン、グルジアなどで働き、パースに移っています。国際的でもあり、遊牧的な人生でもありますね」

井上：「異動になったとき、原点に立ち返ったんです。それで、入社時から抱いていた、『日本に安定的にエネルギーを供給する』というミッションに対して、違った立場から貢献できるならば、と奮起して来ました」

タウンゼント：「私も、石油やガス事業のグローバルさ、現

プロジェクトの使命感に共感して転職を決意しました。プロジェクトの開発初期段階から携われるチャンスだったことも一つの理由です。INPEXの中核事業を担うこのプロジェクトの可能性を信じ、これまで働いてきました」

井上：「よく、日本とオーストラリアの働き方の違いを質問されます。私は、“日本だから”とか“オーストラリアだから”という違いはないと思っています。プロジェクトを構成する一員として、まずは自分の役割を果たして、チームに貢献し、存在価値を認めてもらう必要があるからです。だから、働く場所や出身国は関係ないんです」

タウンゼント：「INPEXでは、20カ国以上の人と一緒に働いているので、国籍の多様性はさることながら、様々なキャリアやバックグラウンドを持った人が入社しています。そうしたときに、過去の経験や前職の企業文化を押し通すのではなく、私たち独自の企業文化を共有し、創造することが大事です」

井上：「一人ひとりがプロフェッショナルであり、個々のバックグラウンドや文化等を尊重し、高め合いながら、ゴールに向かって、共に最良で最短の道筋を描くという企業文化をINPEXは持っています。社内ではこれを、“INPEX WAY”と呼んでいます」



渉外・広報の仕事って？

渉外業務とは、外部と連絡、交渉を行う業務のこと。事業戦略に沿った交渉を、相手の要望を聞きながら提案していくコミュニケーション活動。広報業務とは、企業情報を外部（主にメディア）に発信していく業務のこと。会社のイメージをPRし、ブランド醸成を行う仕事。



『INPEX』での渉外・広報の仕事

■対外折衝関係を管轄 ■オーストラリア連邦政府、地方政府との折衝 ■日本政府との折衝 ■投資家・NGO・メディア対応 ■ジョイントベンチャーの対応 ■地域コミュニティ・先住民との関係構築など

取材先

INPEX

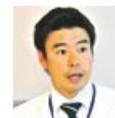
日本最大級の石油・天然ガス開発企業。原油や天然ガスを探鉱、開発、生産、販売し、石油精製会社や電力、ガス会社へ供給する。

INPEX

住所：Level 22, 100 St Georges Tce. Perth
電話：08 6213 6000

会社の個性を創りあげる

会社らしさを創り、維持するためのユニークな制度や文化。グローバル企業のそれとは？



井上：「風通しの良い社風を作るために、ユニークな文化もあります。例えば、“ハーモニーウィークランチ”と言って、定期的に行われる文化・協調週間に、自分の国の料理を持ち寄って、懇親会を行います。その他にも今年は、ビデオ会議システムを使って、同じプロジェクトに関わる各国メンバーで顔を合わせる場を設ける予定です」

タウンゼント：「それから、パース事務所長が四半期に一度、社歴の浅いスタッフを15名程ランダムに選び、話をする場を設けています。経営陣から直接、会社の歴史や強み、バリューを共有する場があるのは良いことだと思います」



タウンゼント：「毎週発行しているE-mail社内報も、INPEXらしさを出す一つのツールになっていますね。事業戦略のようなフォーマルな話題もあれば、スタッフのパーソナルな情報まで、社内報を通じて毎週共有しています」

内部コミュニケーション

組織の中で働く以上、チーム内、チームとチームを横断したコミュニケーションなど様々なものが求められる。

タウンゼント：「INPEXでは、仕事を円滑に進めるために、内部コミュニケーション（internal communication）も大事にしています。成長し続ける組織の中では、縦、横、チーム内など十分なコミュニケーションを取らずには仕事できません」



井上：「社内では、そのことを“NO Surprise”と呼んでいます。初めて新しい情報を聞いて驚くことがないように、事前に関係者に幅広く共有、連絡をすることで、物事をスムーズに前へ進めるようにしています。日本語で言うと“根回し”なんですけど、ポジティブな意味合いなので“NO Surprise”なんです」

タウンゼント：「“根回し”“集会”“安全第一”は、社内でも共通認識できる日本語ですね（笑）」

タウンゼント：「INPEXでは“NO Surprise”な情報共有がなされる分、意思決定に時間と手間がかかるという点もあります。しかし、いったん意思決定がなされると、情報が事前に共有されているため、その後のプロセスがスムーズに進みます」

井上：「私たちのような組織でコミュニケーションを取る際は、どんな些細なコミュニケーションでも“礼儀正しく”“尊敬しあうこと”が大事だと考えています」